



▲所信を述べる西川区長

その具体的な取り組みである「荒川区民総幸福度(グロス・アラカワ・ハッピーネス)」の研究が実を結び、いよいよ活用段階に入ってきました。また、25年6月には、「住

民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合(通称・幸せリーグ)」が、全国52の基礎自治体の参加を得て設立され、私が会長に選任されました。荒川区が先頭に立って、真の意味で地方分権を担える基礎自治体となることを目指します。

私から、この10年間、日本経済の景気後退、格差社会の顕在化、新型インフルエンザの流行、東日本大震災の発生など、目まぐるしく歳月が過ぎました。私は、これまで千に迫る新規・充実事業を実施すると共に、積極的に、他自治体に対して働き掛けを行ってきました。

① 確かな未来に向けたチャレンジ

平成26年第1回定例会の開会に当たり、私の区政運営に関する所信の一端を申し上げます。

安全安心のまちづくりや子どもたちの希望の実現に向けて、なお一層幸福を実感できる予算

平成26年区議会第1回定例会で区長が所信を表明

西川区長は2月19日、平成26年区議会第1回定例会の冒頭で、今後の区政運営の方向と平成26年度予算の編成方針及び主要施策について、所信を述べました。

二つ目は、子どもたちが希望を持って未来に進める環境づくりです。インド独立の父、マハトマ・ガンジーに、「過去は私たちのものだが、私たちは過去のものではない。私たちは現在を生き、未来をつくる。たとえその未来に私たちがいないとしても、そこには子どもたちがいるから」という言葉があります。子どもたちの健やかな成長をしつかりと支えることは、我々の責務です。2020年のオリンピック・パラリンピックの東京での開催を一つのチャンスと捉え、荒川区の子どもたちが、世界の人々と交流を深め、郷土に誇りを持ち、夢を実現出来るよう、教育や子育て環境の更なる充実に図っていきます。

② 平成26年度予算案

26年度の一般会計予算は、932億円で、荒川二丁目複合施設の整備や、サンパル荒川の大規模改修工事などによる投資的経費の大幅な増加により、25年度の予算額と比較して68億円、7.9パーセント増の、過去最大規模の予算となっています。区民の皆さまの夢を育む未来への投資など、「安全安心のまちづくりや子どもたちの希望の実現に向けて、なお一層幸福を実感できる予算」として編成しました。

なお、IOC、国際オリンピック委員会が、「オリンピック」の名称の使用を許可しているものとして、オリンピック・パラリンピック以外に、デフリンピックとスベ

23年3月11日に発生した東日本大震災から3年が経過しました。多くの尊い命が失われ、我が国近代史上未曾有の甚大な被害が生じたことに、心から哀悼の意を表します。また、今なお避難生活を送っておられる多くの方々に、改めて衷心よりお見舞い申し上げます。区では、東日本大震災の教訓を生かして、さまざまな防災対策を進めています。今後、更なる充実に図り、区民の皆さまが安心して暮らせるよう、職員一丸となり、防災対策に取り組んでまいります。

東日本大震災の教訓を生かして

荒川区長・特別区長会会長 西川 太一郎

全区立小・中学校にタブレットPCを配置し、活用時における児童・生徒一人1台体制を確立し、ICTを効果的に活用した教育を充実させます。



▲タブレットPCを使った授業

③ 安全安心都市



▲尾久消防団によるハケツリレ

25年9月に東京都が公表した「第7回地震に関する地域危険度測定調査」の結果、都内の全5133地域のうち、総合危険度が区内19地域が100位以内にランクされた事実を踏まえ、26年度は、首都直下地震対策特別措置法に基づく関係法令の改正に向けて、更に国や都への働き掛けを強め、本造住宅密集地域の不燃化や永久水利施設の整備などを推進し、首都直下地震への備えを充実します。

不燃化特区整備促進事業では、新たに町屋・尾久地区において、地域の不燃化の促進等により、災害に強い街づくりを推進していきます。

また、すべての避難所での開設・運営訓練の充実を図っていきます。とりわけ、福祉避難所は、要介護高齢者や障がい者の避難生活支援に必要な福祉用具等の充実を図ります。併せて、要援護者名簿の充実と、個別の避難支援計画の作成を推進します。